

2019年度第3回 町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会

議事要旨

【日 時】2019年8月8日（木） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】市庁舎2階会議室2-2

【出席者】

委 員：松波（委員長）、奥（職務代理）、斉藤（崇）、澤井、須永、斎藤、多久島、小池、菟澤

事 務 局：町田市環境資源部 荻原、環境政策課 宮坂、川瀬、土志田、坂牧、井上、香山

コンサルタント：株式会社知識経営研究所

【傍聴者】なし

議題

最終評価結果および市への提言

松波委員長：評価項目ごとに内容を確認していく。進行はコンサルタントにお願いする。

コンサルタント：外部評価報告書は委員からの評価結果を取りまとめて案を作成した。報告書案の4ページ以降についてこの後確認いただき、訂正等を行っていく。

温室効果ガス排出量・エネルギー使用量

松波委員長：資料1、主な評価意見の3つめ、「再エネ導入状況等の要素の評価点と価格点」とあるが、価格点とはどういう意味か。

奥 委 員：金額・価格を点数化するということである。

コンサルタント：総合評価方式のことであるが、分かりやすい表現があるか。

奥 委 員：「価格点」とすると分かりにくいかもしれない。

コンサルタント：「評価と価格」でも意味は通じるのでそのように修正する。

松波委員長：CO₂の2は下付が良いのではないか。

コンサルタント：修正する。

斉藤（崇）委員：CO₂の表記は全角と半角が混在している。数字も全角のものがある。

コンサルタント：数字、アルファベットは日付等も含めて全て半角とする。

廃棄物・紙資源・グリーン購入

奥 委 員：2次評価の際に記載した評価意見（参考資料参照）、「次期システム更新の際には、網羅的な対応を期待する」を報告書に入れていただきたい。

コンサルタント：報告書では「配慮すべきであった」という表現をしている。

奥 委 員：過ぎたことだけでなく、次のことについて記載しているので、セットでいれていただきたい。できるかまではわからないので、期待するといった表現で

お願いしたい。

コンサルタント： 修正する。

松波委員長： 報告書の4点目、「集計単位が変更になった（数量から件数）」を「変更（数量から件数）になった」とした方が良い。

須永委員： 6点目、「～します」という語尾は、あえてそうしているのか。

コンサルタント： 色々な委員がいるということであえて残している。

コンサルタント： この項目はシステム変更により経年的な評価ができないことを受け、低めの点数になっている。

齋藤(崇)委員： 集計システムが変更されたという情報は、読み手はどこから分かるのか。

コンサルタント： 実績報告書に記載している。評価報告書には記載していない。

齋藤委員： 4点目、主語と述語が分かりにくい。「持続的に環境マネジメントシステムを継続していくには、望ましい」の主語は何になるか。

須永委員： 「継続していくには新システムの導入は望ましいと考える」ではどうか。

奥委員： 「新システム導入により事務労力が軽減されることは望ましい」ということではないか。

コンサルタント： 「望ましい」というのは、不具合はあるが、仕方がないということか。

須永委員： 今回は仕方がなく、今後に向けては良いことなのではないかという趣旨である。「新システム導入により事務労力が軽減されることは、今後も持続的に環境マネジメントシステムを継続していく上では望ましいと考える」の方が分かりやすいか。

齋藤委員： 「導入が望ましい」とすると意味がとおしやすいのではないか。「新システムで労力が軽減されるのであれば、持続的に継続していくには、導入が望ましい」ではどうか。

コンサルタント： 新システム導入を頭にいれるか。「新システム導入により定量的な評価は難しくなったが、事務労力が軽減されるのであれば環境マネジメントシステム推進の上では望ましいと考える」。「難しくなったのは問題であるが」とすると分かりやすくなるかもしれない。

須永委員： 表現はお任せする。

エコオフィス活動（共通の取り組み・施設を管理する部署の取り組み）

コンサルタント： 現地確認については、実地確認などの複数の表現を現地確認に統一した。

コンサルタント： 施設管理の最後のコメントについて、公共施設というと町田市全部の施設になるが、特別に意図した施設形態があるか。

奥委員： 市民が利用する施設という意味である。

コンサルタント： 市民利用施設で良いのではないか。

奥委員： 昨年、現地確認した図書館は照明を暗くすることは性質上難しいという状況もあった。そういった多くの市民が利用する施設という意味である。

コンサルタント： エコオフィスの評価は事務スペースを対象にしているのか。

事務局： 事務スペースが主だが、窓口対応があると、昼休みでも点灯しているという

こともある。

コンサルタント：学校も対象か。

事務局：対象であるが、学校の実施率は低くなかったかと思う。

奥委員：趣旨は、特定の施設というよりは、施設の用途・利用状況を鑑みると徹底が難しい施設まで徹底を求めること自体無理なのでないか、ということである。学校など、特定の施設を明記する必要はないかと思う。

コンサルタント：この言葉のままで良いか。

奥委員：これでその趣旨が伝わるか。もしくは解釈に間違いがあるか。実績報告書の21ページ、昼休みの消灯ができているかという表から記載をしている。

コンサルタント：昼休みの消灯に×がついているのは市民センターと博物館、健康福祉会館等である。

奥委員：そういったところはそもそも無理なのではないかということである。

コンサルタント：終日市民がいる施設や病院・福祉系の施設ということになるか。

奥委員：市民病院は○となっている。

コンサルタント：市民病院では執務室だけを評価対象にしていると思われる。その評価が正しい。×○の問題は、できるところでやっていて○、できないところも入れて×というのが混在しているのが問題ではないか。

奥委員：「終日市民が利用する施設や教育施設において、実施率が低い傾向がみられる」とするか。

コンサルタント：ここでは実施できないという施設を除外して評価する方法もある。学校でばらつきがあるのはそういう点かと思う。そこも問題であるかと思う。

奥委員：この指摘をどのように捉えて、どのように評価対象について共通認識をもってもらえるようにするのは、市の方で検討していただければと思う。

コンサルタント：斉藤委員、取り組みが×から○になった理由も明確にすべきか。

斉藤(崇)委員：改善されたかどうかをそこから見たいと考えた。

コンサルタント：両方の変化に理由が求められるのは、マネジメント上難しいかと感じた。

斉藤(崇)委員：網掛けなど、変化があったのかどうか分かる様にする程度で良いかと思う。

奥委員：共通の取り組みの項目で、課単位で評価することが必ずしも妥当でないのではないかという意見を記載した。前々から感じていた点である。部やフロア全体での評価単位を考える余地があるのではないか。そこも可能であれば報告書に入れていただきたい。

コンサルタント：小池委員、報告書案5ページの下から2つめの評価意見で、「外からみて足りない点」という表現について趣旨を確認させていただきたい。

小池委員：施設それぞれに成り立ちや過程が違い、またニーズも違う。その中でそれぞれに意識はあり、できる範囲で頑張っていることが分かった。しかし、本庁から離れた施設では独自ルールが進行しがちである。各施設の努力を認める一方、緊張感を保つために、外からの目が入ることは必要だと感じた。

コンサルタント：今、それが無いと意味ではないということか。

小池委員：そうではないが、それで良しとするのではなく、この状態を続けていくのに

外からの視点が必要だと感じた。

コンサルタント：「内部環境監査や外部評価のように」というのを追加すると良いか。

小池委員：それで良い。スパンは長くなっても良いかと思うが、放置ではなくて、ある程度関わっていくことが必要かと思う。

内部監査

奥委員：参考資料にある2次評価意見の内、私の4点目の意見について、廃掃法以外の法令は大丈夫かという不安があるので、可能であれば報告書に入れていただきたい。どう対応されるかは市に委ねる。

コンサルタント：スペース的にあまり余裕がないため、報告書案の最後の意見、「3件のうち2件は」といった記載を削除しても良いか。褒める表現は他の委員の意見にもあるので、そちらとまとめることはできるか。

奥委員：褒める部分である内部監査が機能していることが分かった反面、そこだけしか見られていないのではないかという不安につながっているので、一連の文章でないとおかしい文面になってしまう。

コンサルタント：内部監査で見ているのは廃掃法だけでないかということか。

奥委員：廃掃法は力を入れて見ることになったが、それだけなのかという不安である。

コンサルタント：廃掃法すら不適合が見つかる状況であるのに、他の法律は大丈夫かということであれば、確かに元々の表現で入れる必要がある。

齋藤(崇)委員：法令チェックシートは、2019年度からの導入である。報告書案で「昨年度からの前進」と記載しているのは、2018年度から2019年度は進展が見られたということかと思う。今回の外部評価は2018年度の評価をしているので、その記載がどうかというのが気になる。

コンサルタント：今回の評価対象である2018年度にはチェックシートは機能していない。

齋藤(崇)委員：「今後の前進が期待できる」という未来の表現にしてはどうか。

奥委員：一昨年度の監査で廃掃法違反などがあり、昨年度の外部評価での指摘を受け、今年度からシートを導入した。単に内部監査が機能しているだけでなく、全庁的な改善につながっているという要素も入れた方が良いと考え、その一例としてのチェックシートの記載であった。それをどのように表現すると良いか。場合によってはチェックシートの記述を削除するか。文脈はすっきりするが導入の事実が見えなくなってしまう。

コンサルタント：「おわりに(まとめ)」の文章には入れた。

奥委員：そちらで入れていただければ、こちらは削除でよい。

コンサルタント：その他はどうか。

齋藤委員：4点目の意見、「改善されていることには」の「に」はいらぬのではないかと。

コンサルタント：削除する。

須永委員：5点目、法令順守の字が他と異なる。

齋藤委員：「遵守」に統一で良い。

おわりに（まとめ）

- 齋藤（崇）委員：「先進的なシステム」について、何と比べて先進的なのかを入れた方が良いかと思う。「わが国の自治体の中でも」や「他自治体と比べて」など、先進的という言葉に何か付け加えた方がすっきりする。環境マネジメントシステム自体が先進的なシステムというようにも読み取れる。
- コンサルタント：町田市のように、監査を2回行い外部評価も実施して、という自治体は多くはないが、「他自治体と比較して」とまでは違和感がある。
- 齋藤（崇）委員：「先進的」をとってしまっても良いのではないか。
- 須永委員：他の自治体も環境マネジメントも実施しているのか。
- コンサルタント：一定規模以上の自治体であれば、少なからず実施している。
- 齋藤（崇）委員：他自治体との比較表現が優劣のようになってしまい避けたいのであれば、「取り入れていることが特徴である」という表現もできる。
- コンサルタント：「透明性が高い」という表現で評価しているので、先進的という表現は削除し、「取り入れている」でストップしてはどうか。
- 須永委員：先進的であることは間違いないのか。
- コンサルタント：ここまでやっているところは少ない。先進的であるかということ、仕組みとしては存在して他自治体はそれを選択していないということなので、少し違うかもしれない。
- 多久島委員：他市と比較してということはこういった報告書では出さなくとも良いのではないか。
- 小池委員：前回は載っている表現なので、同じ表現でなくても良い。外部評価をやっている自治体はあまり見当たらないので、その点は良いのではないかと思う。
- コンサルタント：「透明性の高い評価プロセスを取り入れている」とシンプルにする。
- コンサルタント：最後の文章の終わり方、「申し添える」はどうか。
- 齋藤（崇）委員：良いかと思う。「申し添える」という使い方をこういう場でするのかというのは気にはなったが、違和感はない。
- 松波委員長：文章の位置を入れ替えてはどうか。最後のパラグラフで、「指摘されている」の後に、「しかし、自組織に対して」を入れ、最後に、「2019年度より開始した」とすると良いのではないか。
- コンサルタント：全体的に最後の言葉は内部監査に関する記述で良いか。
- 松波委員長：「対応不備が指摘されているが、自組織に対して厳しい指摘を行う内部監査の客観性、有効性は全評価委員が高く評価をしているところである。また、2019年度より開始した・・・」の順ではどうか。「2019年度より開始した」の文末は、「徹底することが期待される」とすると未来につながる。
- コンサルタント：そのような表現で終わるのが良いように思う。当初、「申し添える」の後に考えていた文章は、「SDGs対応やESG投資を背景として、今後市民や事業者にも更なる環境配慮行動が求められる。国や地方自治体にはそれらを牽引すべく、率先行動をする責任がある。町田市においても、今以上に我々の規範と

なるよう、環境マネジメントシステムの推進と成果向上に一層の努力を望む」であった。

小池委員：行政が牽引するというのは良い言葉だと思う。別の部分だが、「せっかくの」という表現が少しひっかかる。

奥委員：「せっかくの」はなくても良い。

松波委員長：先ほど修正した「2019年度」からの文章の最後の部分は、「全庁的な水平展開の徹底が期待される」の方が良い。

須永委員：その最後のパラグラフは、“不備が指摘されるが評価されている、ただ徹底する必要はある”という内容になっている。「内部環境監査においては前年度に引き続き自組織に対して厳しい指摘を行う客観性・有効性は全評価委員が高く評価しているものの、前年度に引き続き対応不備が指摘されていることは問題である。これについては2019年度より開始した・・・」ではどうか。

奥委員：厳しい内部監査を行っているから指摘が出てきている。

須永委員：そうすると元の方が良いか。

奥委員：「・・・指摘されており、これは自組織に対して厳しい評価を行う内部監査の客観性・有効性によるものであると全評価委員が高く評価しているところである」という感じか。

コンサルタント：須永委員が言うように、内部監査を褒めている印象は確かにある。法令違反があることが問題であり、それが読み取りにくいかもしれない。

須永委員：対応不備が問題なのか。「おわりに（まとめ）」の2段落目、「マネジメントする「仕組み」は改善の余地がある」からつながっているのか。「例えば」以下に調達の話があるが。

コンサルタント：内部監査は切り離している。

須永委員：「例えば」は調達と集計単位の2点ということで良いか。

コンサルタント：そうである。最後のパラグラフは、「また」はいらないかもしれない。

須永委員：「なお」や「一方」、なくとも良い。

コンサルタント：ここの表現は預からせていただき、委員長とのやり取りで整理したい。

松波委員長：全ての確認が終わった。全体をとおしてどうか。無いようなので、今の内容でまとめさせていただく。文言や軽微な修正等は委員長一任で修正させていただき、最終的な報告書は各委員に送付する。この内容を受けて、事務局から何かあるか。

事務局：ありがとうございました。環境マネジメントシステムの改善に活かしていきたい。最終的な報告書は9月に市長に報告を行い、10月には市長のコメントをつけ、庁内の省エネ対策会議で各部長に報告する。

- 各委員から2年間の感想をいただいた。
- 閉会